

**【Q1】候補者のすすめたい政策をお聞かせください**

私が取り組みたい政策は「教育」です。

その上で推し進めたい政策は下記の2点です。

①労働環境の整備を後押しする燕独自の政策の実現

②休日を楽しくする場所づくり

これまで教育に携わって見えたのは、子どもたちに学校でどんなに燕はものづくりがすごいと教えても、そこで働くお父さんやお母さんが仕事を終えて、ものづくりの環境に不満を言っている親の姿を見ていればものづくりに携わりたいと思う子たちは生まれづらいと考えたからです。

だからこそまずは働きやすい労働環境の整備が一番重要であり、一方で、仕事が充実しても休日を楽しく過ごせる場所がなくては、住みたい街にならないと考えたことから、②の政策も同時に進めていきます。

現在、経営者の方々は材料費の高騰や電気代の高騰の影響を受けの中で、職場環境の整備や労働条件の見直しに取り組んでおられます。だからこそ、さらに後押しできる政策を燕市と一緒に取り組む仕組みづくりを行います。

**【Q2】候補者から見る燕市、市政の課題、問題点についての考えをお聞かせください**

現状の燕市は基本的に必要な場所やものは全て整っていますし、そこに秘めている可能性も非常にあると考えております。

また、燕市長も新型コロナに対応した政策をいち早く打ち出し、その政策を見て他の市が真似るくらい非常に対応は素晴らしかったと感じています。

一方で、コロナ前を見た時には何か面白みに欠ける街というのが私の認識です。さらに、政策自体については、市役所時代から感じていたことですが、市民や事業者の方の意見を聞いてというよりも分析しておそらくこうだという部分での政策が多いのかと感じております。

例えば、新商品開発補助金の申請を毎年様々な企業のお手伝いをしていますが、実際に使っていると自社での製造を促すはずの制度が、外注の方が計上しやすいと感じます。

自社での加工の場合、通常の加工費換算ではなく、時給換算のため、自社で作るよりも外注で、別の仕事を自社でする方が工場の稼働としてはマイナスがない点などです。

### 【Q3】候補者から見る燕市の素晴らしい所をお聞かせください

燕市役所で10年働いてきましたが、街としてのポテンシャルが非常に高いことです。

そして、一番の素晴らしいところは「職」があるところです。

移住担当の時に実際に県内外と様々な地域を実際に現地に行き、見てきましたが、ここまでまとまって働く場所がしっかりと確保できている地域は地方の一

都市ではそんなに多いわけではありません。働く場所があって、その技術を高く評価されているからこそ、あとは労働環境を整えていけばものすごく地域として強くなる。そんな大きな可能性を秘めた街だと考えています。

さらに、首都圏からの交通の便もよく、自然も川や山、海も近くにあることからアクティビティや市内での交通網がしっかりと整えればもっと魅力的な街になると考えています。

これらの可能性をしっかりと引き出すために市に対して提案や今後の取り組みについて質問、チェックしていくのが燕市議としての役目だと考えています。

【Q4】候補者から見る国政を含む世界情勢についての考察をお聞かせください

現状の国際情勢の中で日本の立ち位置がどんどん低くなっている状況を一番危惧しています。あわせて、ウクライナ危機による穀物不足や空輸コストの上昇、さらに新型コロナウイルス感染症によるコンテナ不足や半導体不足、海外への往来のハードル、さらには中国やロシアや北朝鮮との国防の問題など様々な要因によって今の日本は非常に厳しい状況にあると考えています。

そして、その影響を燕ごととして考えた時に大きく影響を受けるのが燕が得意とする製造に流通にあたっており、今後、売上が大きく上がる要因がない中でコストは膨大に増えつつ、最低賃金は上がり、それでも政府からはベースアップを求められている状況を見ていると今後の燕市で働く人が少なくなっていくことしか考えられない状況です。だからこそ国政として、ただ物価上昇分を賃上げの要請を求めるのではなく、企業が賃上げできる要因や、政策をしっかりと打ち出した上で賃上げ要求が必要だと感じています。